

# 《環境のお話》



## ゴムの木植林による熱帯雨林の破壊

2009年12月

中国南部の雲南省には熱帯雨林があり、稀少動植物が多いことで知られています。しかし最近、同省のシーサパンナー(タイ族自治州)というところでは、熱帯雨林が、ゴム林に変わってしまったそうです。

その理由の一つは、地元政府が村の発展のためにゴムの木の植林を奨励したこと。熱帯雨林気候であるメコン川流域(雲南省南部を含む)ではゴムの木がよく育ちます。中国国内でも天然ゴムの需要は高いため、ゴムの植林によって村の収入が急増し、今までの村人たちの生活からは考えられないほど、生活が豊かになったそうです。

しかし、CO2を吸収してくれ、多様な動植物の生活場でもあり、水を吸収し洪水などの被害から守ってくれるなど、人が生きていく上でとても大切な役割を担っている熱帯雨林が減少しているということです。

自然環境を守ることが叫ばれている今の時代、経済発展のために貴重な熱帯雨林を破壊してしまうなんて・・・と思うかもしれませんが、かつて、日本も自然を破壊しながら経済発展を遂げてきました。それを思うと、一方的に非難することはできないのかもしれない。生活の豊かさと自然との共存というのは、とても難しい問題ですが、世界の国々が協力し合い、解決していきたいものですね。

Copyright(c) 2006 OKAYAMA CO., LTD. All Right Reserved



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目32番7号  
TEL 03-5688-6700 / FAX 03-5688-6709 [E-MAIL okayama@kk-okayama.co.jp](mailto:okayama@kk-okayama.co.jp)